

各事務局だより

■本部

四月より、7年間事務局長を担った川井先生から引き継ぎ、丁寧なご指導いただき三か月。いろいろな会が次々と、内容も見通せない毎日で混乱しないよう頭の中を整理しています。

さて、本部を熟知している橋本総務部長と事務局次長佐々木さんや十八名の部長・部員の皆さんが、連携を密にとり、総会や理事会を終えることが出来ました。事務局は、全国の退職校長の皆様方の声を聴き、活動・運営のサポートに尽力したいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



■北海道退職校長会

近年は、会員の高齢化と会員減に悩む支部の解散や合併が相次ぎ、30支部以上あった支部の数も、今年度は25支部に大きく減り、そのため大幅な会員減となっている。(5月現在、会員数1965名)

他にも、活動停止や本部からの離脱(地域内のみで活動する)を模索する動きが出ていることから、道本部の今後の在り方にも大きな影響がでると考えられる。



■岩手県公立学校退職校長会

事務局は、「研修・親睦・社会貢献」を掲げる本会の運営を支える拠点として、会長と副会長の指導を受けながら実働部隊の常任理事一五名が、総務部、研修部、厚生部、経理部に分かれ、県内一六地区会と連携・協力して、退職校長相互の親交や連帯意識を高めるサポートをしています。また、長年の教育経験を生かした地域貢献活動や現職教育への支援など、岩手の教育発展と地域社会を繋ぐ役割を担うべく精力的に活動しています。



■宮城県退職校長会

宮城県退職校長会には現在千九百三十名の会員がいます。県内十四支部の活動を支えるために、十三名の常任理事が、庶務部、経理部、福祉厚生部、広報部、みやぎ教育の日担当に分かれ、各活動を推進しています。新入会員懇談会や関係機関との教育懇話会、みやぎ教育の日推進大会の開催、年二回の会報発行などを通し、会員相互の親睦を図り、本県教育の振興に寄与できるよう取り組んでいます。



■鹿児島県退職校長会

最近の大きな特色としては、①教員の人材確保支援と②ICT教育の普及促進への積極的な取組が挙げられる。①では鹿児島大学の教員養成基礎講座へ退職校長を講師として派遣し、未来の教員の質の向上に貢献している。②ではGIGAスクール構想を受け、市ICT推進センターでの演習や先進校の視察等を行い、最新の教育動向を会報で発信・啓発している。今後、次世代の教育を支援し、退職校長会としての存在意義を高めていきたいと考える。



■宮崎県退職校長会

宮崎県退職校長会は結成五十有余年を迎え、小・中学校退職校長等約千三百名ほどで結成されています。会員は、現在様々な分野で活動しており、地域に貢献するとともに、会員相互の親睦を深めています。本部は、役員を始め、研究調査部・福利厚生部・編集広報部・事務局の4つの部で構成しており、全県下十一支部の活動を支えている。



■大分県退職校長会

本県の特徴事業である地域活動懇談会における実践交流や学校支援活動など、会員にとって魅力が感じられる退職校長会を目標し事業を推進している。

会員数減、新規加入者の減、予算の確保等、対策が困難な課題も多くなってきたが、県下会員一七五六名が力を合わせ、「大分県教育の応援団」という合言葉を心の支えとし、今後とも繋がり合い、支え合う会の運営を進めていきたいと考えている。



各都道府県それぞれ、事務局の定義が異なることを感じています。共通していることは、和気藹々とした雰囲気。次号239号には、秋田県、山形県、福島県、茨城県、福岡県（中学校）、佐賀県、長崎県、熊本県の退職校長会事務局を掲載予定です。